

年 組 名前:

# 生成AI 教員活用探る

## 石田小 文科省指定校に

甲府・石田小(野沢初美校長)は本年度、文部科学省の生成AI(人工知能)パイロット校の指定を受け、校内での活用を研究している。働き方改革の一環として、主に校務で導入。業務の効率化を進め、児童と向き合う時間の確保などを目指す。教職員の生成AIリテラシーの向上を図りながら活用事例を収集し、効果的な使い方を探る。  
(杉原みずき)



## 業務効率化へ 事例収集



生成AIを使って発表会で使用する資料の案を練る教員  
甲府・石田小

同校は昨年度から「リーディングDXスクール」の指定を受けて、ICT(情報通信技術)の活用推進や校務のデジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組んでいる。このうち生成AIの活用を進めるパイロット校は、県内で同校のみとなっている。同校は本年度、教職員の生成AIリテラシーの向上や活用事例を学ぶ研修を重ねている。行事案内をはじめとした保護者への通知、掲示物のデザインなどのたたき台作成に活用。AIによる案をベースに教員が内容を検討し、同校の児童や保護者に合わせたものにしていく。アンケート集計にも生かしている。野沢校長は「AIの提案にまずは教員がしっかりと学んで、業務効率化の効果を実感できるようにしたい」と話している。

教職員の考えを掛け合わせることで、より良いものができている」と説明。業務の効率化にもつながっていると感じている。

現在は校内で活用事例を収集して共有。今後は教材の素案作成など学習に関する場面の活用も検討していくという。野沢校長は「AIの情報をつのみにせず、真偽を確かめることが欠かせない。教職員が子どもにとって一番いい教育を考えることが重要という共通理解を持って、AIを活用していきたい」と話す。

市教委は6月、生成AIの利用に当たってのガイドラインを作成し、市立小中学校に周知した。ガイドラインには、児童生徒の学習に関する情報を打ち込まないようにするなど、の注意点を盛り込んだ。石田小での活用事例は今後、市立小中学校にも共有する予定。担当者は「生成AIはこれからの社会で必要な技術。まずは教員がしっかりと学んで、業務効率化の効果を実感できるようにしたい」と話している。

(2024年10月5日付 山梨日日新聞 17面)

問1 本年度、甲府・石田小は、なにの研究をするパイロット校の指定を受けましたか。

.....

問2 昨年、石田小は「リーディングDXスクール」の指定を受け、なにに取り組んでいますか。

.....

問3 あなたは、「生成AI」をどのように活用することが良いと思いますか。

.....